しろいしには何色がお似合い？

和一緒と日新月報

柴田三兄妹

ぽっかぽかコンサート

手作り白石グッズ

おもしろい市

ショートムービー

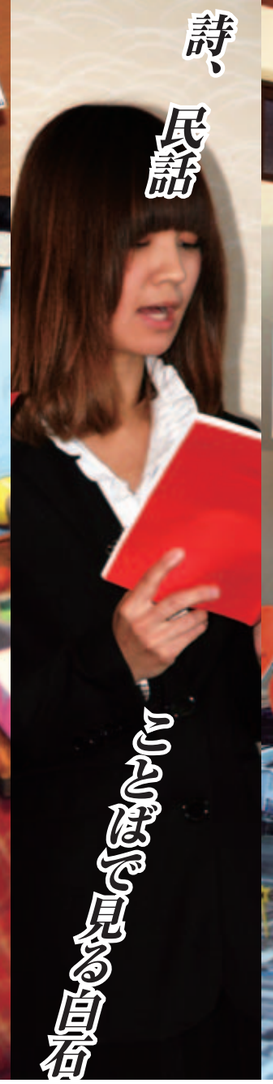
白石デート大作戦

4 6 1 4 しろ・い・し がキーワード

白石キーワードマップ

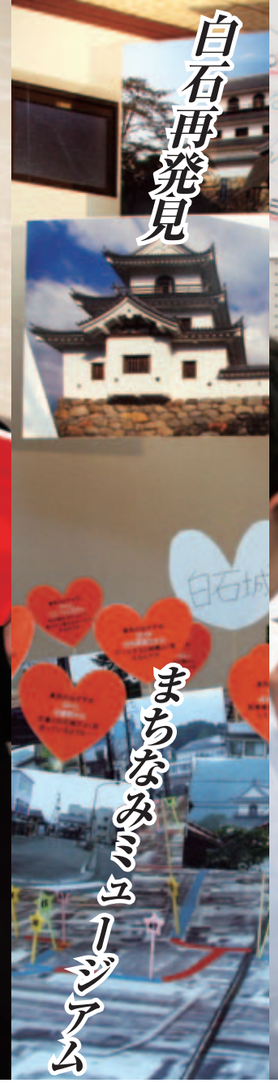
クレイアニメ

まごにめ～しょん



詩、民話

ことばで見る白石



白石再発見

まちなみミュージアム

白石のキャッチコピー

LIVEアテネ

11月1日から3日まで、壽丸屋敷や情報センター「アテネ」、中央公民館のほか、専念寺や中心商店街の空き店舗を利用して、「第1回尚絅メディアフェスタ～今から描きたい～白石遠近法」と銘打ったイベントが開催された。遠くから近くから、過去・現在・未来から学生79人と教員9人、合わせて88人の視点で思いがけない白石を見つけ出し、さまざまなメディアを使って、白石を紹介していこうというものだ。

10月21日の記者発表で、風間市長は「地元にいると分からない、知っているようで知らない、暮らしていると発見することができない、白石の良いところ悪いところを見つけてください。そして、市民とともに学び、白石を元気にしてください。白いキャンバスが何色になるか、一緒に描きましょう」とイベントへの大きな期待を言葉にした。

また、尚絅学院大学の佐々木公明学長は、「教員による手作りの教育、地域と協力した教育を理念とした教育を行っています。3年前に新設した表現文化学科では、この理念の下で人との交流を通して、その地域の文化にあったものを提案していける人材を育てたいと考えています。地域での新たな発見から、新たな教育を進めていきたいと考えています」とあいさつ。生まれたばかりの表現文化学科の最初で最大の総合文化イベントへの意気込みを語った。

このメディアフェスタは、2008年度から3年間、文部科学省の補助事業の一環として開催されるもので、最終年度である来年度も本市を会場に開催される予定となっている。

なぜ、白石市なのか？　大学では本事業を実施するに当たり、仙南のすべてのまちを事前にリサーチした。その結果、本市の持つポテンシャルの高さに注目。市民の皆さんや行政とともに、イベントを成功させられる可能性が高いという結論に至った。また、「戦国BASARA」以来の戦国武将ブームのまちとして、たびたびマスコミにも取り上げられ、注目を浴びていることも開催地として選ばれた要因である。

10の色、10の企画で白石を表現しようというこの「メディアフェスタ」は、壽丸屋敷では、一室を旅館の部屋に見立て、白石を感じる白石グッズを制作、展示する「おもしろい市」。孫太郎虫をゆるいキャラクター化した「ま～ご」のクレイアニメーションの上映。オール白石ロケで制作した青春ショートムービー「白石デート大作戦」の上映を行った。

また、中央公民館では、和太鼓やよさこい、合唱などの市民団体のほか、津軽三味線の柴田三兄妹をゲストに迎え、みんなの「和」をテーマにした「ぽっかぽかコンサート」を開催し、約200人の皆さんが会場に足を運んだ。

情報センター「アテネ」では、白石の取材映像や白石のキャッチコピー談義を、5時間にわたりインターネットで配信する「LIVEアテネ」。白石の魅力を「し・ろ・い・し」にかけて46のキーワードと14のキーパーソンをパソコンで見る「白石キーワードマップ」の公開。白石の魅力を雑誌やミニコミ誌などの印刷物で紹介する「どっこい、活字は元気だ」の配布などを行った。11月3日には、白女出身のマンガ家、安孫子三和さんと東京大学助教の大堀研さんをお迎えし、「地域とマンガ・アニメ」と題して「学術シンポジウム」を開催した。

また、専念寺の会堂では、「白石民話の会」の皆さんによる民話の語り、小中学生から募集した詩の朗読と展示の「ことばで見る白石」。専念寺本堂、旧家具店、旧洋品店では、「白石本郷まちなみミュージアム」と題して片倉小十郎公、白石再発見、孫太郎虫をテーマに、新しいタイプの博物館展示を行い、3日間にわたってまちの中心部は学生たちの若い力であふれていた。

2年前から活動を始め、今年4月以降、幾度となく白石を訪れ市民の皆さんと語り合ったり、夏まつりや鬼小十郎まつりなどのイベントを取材したりと、多くの学生と教員の皆さんが白石を歩き回った。

その中で、皆さんの目には、白石はどのように写ったのだろうか？　そして、白石に似合う色は何色だったのだろうか？

今月号では、このメディアフェスタを通して白石の魅力と、これからのまちづくりについて考えてみたい。